

所属・資格 体育学科・教授

申請者氏名 鈴木 理

研究課題		球技の一般理論を構築するための基礎的検討
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究は、学習内容の明確化に資する新規的な視座に立ってボールゲームの俯瞰図を提示することを目的として行われた。そこで、これまで所与と見なされていた「攻撃」「防御」あるいは「攻撃」に関する判断を一時保留し、ボールを媒体とするイベントに参加する人々が解決を迫られる課題とは何であり、それはどのような状況(条件)下で遂行されるのかを顧慮しながら、可視的事象として現前する個々のゲームをできるだけ抽象化して記述することを試みた。本研究により、「プレイヤーが従事する課題遂行(task execution)」という視点からボールゲームを俯瞰・把握することが可能になるものと見込まれた。
	研究 の 結果	ボールゲームの目的は、「ボールを目的地に移動すること」または「プレイヤーが目的地に移動すること」に大別され、さらに、ボールの移動は「ボールを確保すること(ball-possession)」と「ボールを進めること(ball-progression)」によって遂行されると解された。また、プレイヤーの移動は「ボール保持者と走者の追いかっこ(tag)」と見立てられた。すなわち、従来「攻防を(展開)すること」あるいは「攻撃や守備(によるゲーム)をすること」のように攻撃/防御を所与あるいは既成としてきた球技の学習指導にメタ的な検討を加え、球技の普遍的認識を導く共通理解可能な意味を抽出することに成功した。特に、現行の「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」という類型では、その名称から学習内容(教え学ばせようとするスポーツの文化的価値)を捉えることは難儀であったが、本研究が提出した新たな球技の類型は、各ゲームで如何なる課題遂行が展開するのかを端的に明示することによって、「ゲームとは何か」という球技の本質についての理解を形成することを可能にした。
	研究 の 考察 ・ 反省	本研究知見は、種目の個別理論を超えて球技の全域を眺望する一般理論のレベルでの議論に道を拓くものである。そしてその果実は、とりわけ体育授業の現場で多様な球技種目を扱う教師たちに対して、球技という領域でどのような学習内容を用意し、またその習得を促す教材や指導法をどのように設定すべきか、という点について有益な示唆を与える。なお、今後、本研究知見を体育授業で活用していくためには、本稿の議論を通じて明らかになった「ゲームの課題遂行」を学習者が潤沢に経験することができるような、新規的な教材を考案・適用した実践的研究を蓄積していくことが必要である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>研究成果物</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 鈴木理(2018) 球技における攻撃と防御の認識論的検討. 体育・スポーツ哲学研究 40(1):81-89. 2) 鈴木理(2018) ボールゲームのしくみ(ゲーム構造)から「型」を再考する. たのしい体育・スポーツ 37(2):52-57. 3) 20) 鈴木理(2019) 新学習指導要領でネット型ゲームの授業はこう変えよう! 体育科教育 67(2):12-15. 	